

「とんぼの未来・北の里づくり」令和5年度第1回事例研究会

議事要旨

日 時：令和5年9月6日（水）13：30～16：00

場 所：駅前ビジネススペース カンファレンス2H
（札幌市中央区北5条西6丁目1-23 第2道通ビル）

出席者：別紙のとおり

<議事概要>

1. 開会挨拶

（水土里ネット北海道 平田技術部長）

本日は今年度の事例研究活動の計画と事例研究会員の皆様から地域の現状や課題を踏まえて、視察内容等について検討していただくことになっている。忌憚のない意見交換をされることをお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

2. 自己紹介

<新会員の自己紹介（令和5年度からの新会員）>

（岩見沢市）岩見沢市農政部農業基盤整備課基盤整備係 小野係長

（帯広市）帯広市農政部農政室農村振興課農村振興係 鈴木主任補

（事務局）水土里ネット北海道技術部地域支援課 松野主査

<現会員の自己紹介>

（岩見沢市）岩見沢市広域協定 干場代表

（ 〃 ） 北海土地改良区 小嶋主事

（比布町） 大雪土地改良区 永山課長補佐

（旭川市） 旭川土地改良区 鈴木課長

（真狩村） まっかりニコニコクラブ広域協定 向井会長

（別海町） 別海町産業振興部農政課 友貞主事

（事務局） 北海道農政部農村振興局農村設計課 小笠原係長

（ 〃 ） 水土里ネット北海道技術部地域支援課 佐藤副主幹

3. 議題

(1) 事例研究会過年度の活動および

令和5年度事例研究会行動計画（案）について 【資料1】

（水土里ネット北海道技術部地域支援課 佐藤副主幹）

- ・資料1の7ページから12ページについて説明。
- ・現地視察研修の日程について、本日出席の事例研究会員の都合から12月上旬に行うことで検討する。

（一同）

- ・質疑なし

(2) 令和5年度における視察研修の検討について【資料2】

（北海道農政部農村振興局農村設計課 小笠原係長）

- ・各事例研究会員に対し、各地域の現状・課題解決に向けた視察事例についての説明をお願いする。

（友貞主事）

- ・本町でも構成員の高齢化が大きな課題となっており、今後の活動維持を不安視している組織が多く感じられる。若い世代や多くの人を巻き込んで活動している組織に視察を行いたい。
- ・草地は面積に対して交付金が少なく、活動の幅やメニューも少ないことから広げにくい傾向にある。昨今の外注費の高騰もあり、組織の方々に話を聞くと、満足に活動ができていない、交付金が足りていないという声がある。少ない交付金で上手く活動を行っている組織を見ることができれば、地域に還元できるのかなと考えている。

（佐藤副主幹）

- ・若い世代というのは、組織の中の担い手のことなのか、もしくは学校との連携のようなことを指しているのか。

（友貞主事）

- ・学校は一つのターゲットと考えている。本町の組織だと学校教育と絡めてやって、活動を充実させようという取り組みもされているところであるが、学校自体に子どもたちが少ない。担い手も含めた地域の方々、若い世代が地域の行事に参加しているケースも少ない。子供から大人までを含めて、巻き込んで活動しているところがあれば、良い発見になると考えている。

（向井会長）

- ・少子化の影響で、真狩村では小学校が一つ閉校してしまい、子供の人数も少なくなると推察される。そのような中、学校で、伝統的農法の一つの活動として田植え、稲刈り、もち米を使つての餅つき等の活動をしている。全校生徒を対象にするのは、難しいので、ある学年に絞り込んで、その活動を継続してやってもらうように、話を受けてもらえる

状態になっている。学校独自の年間の行事として食育を行っていたところに私たちの活動を絡めて、一緒にその活動をやっていくことを持ち掛けた。

- ・若い後継者については、農協青年部、フレッシュミセス、女性部などを対象に、多面の活動の説明をより深くして、できる活動はないかと考えている。

(友貞主事)

- ・食育というのは、例えばこういった取り組みをやっているのか。

(向井会長)

- ・毎日食べているご飯をどのように作っているのか、自分の手で田植え、稲刈りをする取り組みを行っている。

(干場代表)

- ・岩見沢市にコミュニティスクールというのがあり、そこでの総合学習でお手伝いしている。その田植え体験の中で、田んぼダムの話もしている。

(佐藤副主幹)

- ・水田地帯に比べて、畑・草地帯というのは単価が安い。このため交付金が少ない中で、上手に活動している事例を収集することは、北海道にとって良いことだと考える。

(鈴木主任補)

- ・帯広市では、エリア拡大や新規立ち上げに向けて取り組みを進めているところであり、カバー率が拡大している地区やまだ取り組みをしていない地域へのエリア拡大について、成功している地区を視察したい。
- ・畑地帯では水田地帯に比べて取り組みのメニューが少ないと感じているので畑地帯ならではの取り組みといったものがあれば、畑地帯の活動組織の活動の幅が広がるのではないかと考えている。そのような事例について知りたい。
- ・事例研究会に参画した経緯として、道推進協議会では女性の参画も1つのキーワードにしていると聞いたので、女性参画に力を入れている地区があれば、どのような取り組みをしているのか聞きたい。

(鈴木課長)

- ・カバー率・エリア拡大について、水土里ネット旭川広域協定は、令和元年度に広域化して、8組織が1組織になった。その後、今まで多面に取り組んでいなかった地区も活動に参加し、令和5年度から旭川土地改良区のエリアとしてカバー率100%で活動することとなった。今まで活動に参加していなかった地区について、おそらく事務負担の部分が1番ネックになっていたと推察されるが、広域化したことでその部分が改善された。

(向井会長)

- ・カバー率を上げていくためには、徐々にでも活動の中に入ってもらっていて、多面の活動を知ってもらうことが大切だと考える。この制度が始まる時、何か新しいことを始めないといけないのかと考えていたが、今まで自分達がやっていたことを活動としてやっていくだけではないのかということで地域が落ち着いた。

(小笠原係長)

- ・鈴木主任補からの女性参画に力を入れているところの話については、北海道の第三者検討会の中でも女性参画が進んでいないということを言われた。来年度あたりに多面の活動に関わっている女性を対象に打合せを開催することを検討している。

(向井会長)

- ・蘭越町の活動組織の女性から広域化に関する話を聞きたいとの打診があった。当組織でも女性を入れて活動したいと考えているので蘭越町のようなケースは、興味深い。
- ・構成員として女性の方は、たくさん入っているが、役員としては入っていないので、女性に役員を務めてもらいたい。

(小野係長)

- ・岩見沢市では、田んぼダムの推進をしているが、全部のところに田んぼダムが入っているわけではない。田んぼダムの広がり徐徐に進めていっているような市町村がどのような取り組みをしているのか知りたい。
- ・また、岩見沢市では、「ざわサポ」という企業支援を実施しているので、企業や大学などが活動組織と連携している先進的な事例を知りたい。

(小笠原係長)

- ・田んぼダムは、田んぼダムの取り組みを行った方だけではなく、その下流の方々に効果がある。そういった課題を上手く解決している組織や地域の情報があればいいと考える。

(佐藤副主幹)

- ・企業連携に関することをテーマにした視察は、過去の研修では実施していない。また地目に関係なく通用するテーマであるので良いと考える。

(小笠原係長)

- ・農水省のワーキンググループ内でも地域対策検討に向けた外部人材・企業等の呼び込みがテーマとなっている。北海道は各地域に大学があるわけではないのでなかなか難しい部分もあると感じているが、参考になる情報があれば伝えていきたい。

(小嶋主事)

- ・岩見沢市の広域協定では、役員の担い手不足が課題になっている。長年同じ方が担っているというのが現状である。女性参画については、女性の方にも役員になっていただくことで、組織の活性化にもつながると考えているので、現地視察研修では役員の若返りに成功した組織、女性役員を活用している組織に伺いたいと考えている。

(干場代表)

- ・北海道農業は、規模が大きく、世帯主である男性が中心でやっていて、他県とは、営農状況が大きく異なる。いきなり女性役員を登用していくのは、難しい部分があると推察されるので女性の会などを作って、活動組織に助言していくのも一つの方法だと考える。

(永山課長補佐)

- ・当地域に関しても、農業者の高齢化や減少が課題となっている。地域の農地面積は変わらないので一人当たりの保全する農地面積が増えて、草刈り管理などが追い付かない状況が発生している。草刈りの代行者を探しているが、みつからないのが現状である。
- ・ラジコン草刈り機や維持管理作業にドローンを活用している地域へ運用や実施体系についての視察を行いたい。
- ・非農業者を中心とした作業グループを設立し、活動に参加している事例についても視察を行いたい。

(小笠原係長)

- ・非農業者の作業グループが、草刈りや泥上げを行っている事例は、全道的にはないと記憶している。

(向井会長)

- ・真狩村だけではなく、全道的にシカの被害は多いので畑の縁回りを電牧で囲っている人が多くいると考えている。電牧を張っている箇所では、手刈りをしているので今後は、ラジコン草刈りという手段も検討していかないといけない。

(鈴木課長)

- ・旭川市も高齢化と担い手不足が課題となっている。ある集落では、以前 10 名程度の農業者がいたが、現在は、高齢の 2 名しかいない。その方々から農地については、集落外の担い手に保全してもらえが、集落を守る人がいなくなることが懸念されると発言されていた。地域の活動に若い世代を取り込んでいる事例を見たい。
- ・女性が中心となり活動を行っている組織の視察を行いたい。

(松野主査)

- ・全国的な地区事例の紹介を行う。青森県十和田市の奥入瀬川沿岸地域保全広域協定は、地区にいる女性役員の声掛けから、女性の構成員の増加や子どもの活動が増えた組織である。
- ・栃木県宇都宮市の申内環境保全会は、活動休止期間があったが、女性の役員が組織の中心となって活動を再開した組織である。
- ・群馬県東吾妻町の岡崎地区環境保全会は、女性の会が中心となりイベントを開催し、地域が活性した組織である。
- ・栃木県那須塩原市の三区町環境保全隊は、非農業者の共同活動への参加が積極的な組織である。
- ・愛知県刈谷市の東境地域資源保全隊は、環境保全活動を通じて、トヨタと連携し、外来種の駆除を行っている組織である。
- ・新潟県胎内市の柴橋環境保全会は、新潟食料大学と連携し、学生が草刈りのアルバイトを行っている組織である。

(佐藤副主幹)

- ・視察先については、全会員の意向に沿うことが難しいため、後日、事務局においてピックアップした内容を皆様に諮るという形でよろしいか。

(一同)

- ・了解。

(小笠原係長)

- ・前回の事例研究会内で、「高圧洗浄車の確保が困難であるため、集中管理孔を設置し用水路からの送水を利用して、暗渠管内に堆積する土砂を洗浄することを使途対象としたい」という意見があり、農水省に質問した。農水省から「資源向上(共同)支払の「30農用地の軽微な補修等で実施する暗渠施設の清掃」については、機能回復等により施設の質的向上を図る目的であるが、集中管理孔は営農活動である地下かんがいが可能であるなど、営農活動にも利用できるため、本交付金の対象外である」との回答があった。
- ・多面的機能支払交付金を活用した災害時における応急措置、災害復旧の事例や大雨が降ったときの土砂上げ等の事例はあるか。

(鈴木課長)

- ・農作業や稲刈りが終わった後は、予算の都合上、来年に回すこともあるが、基本は降った次の日に応急的な補修をしている。

(干場代表)

- ・営農活動に支障がある場合は早急に対応している。営農活動に支障がない場合、次年度にずらすこともある。

(小笠原係長)

- ・多面的機能支払活動に係る保険の加入について、どのような保険に加入しているのか。

(鈴木課長)

- ・当組織が加入しているイベント共済保険について、自損事故は適応となるが、対人対物は、別料金が発生する。
- ・イベント共済保険は、1年間の期間で掛けている。

(干場代表)

- ・ほとんどの人が共済に入っている。多面的機能支払の活動は、農作業中の事故というかたちで対応できると考える。
- ・民間の損害保険は、多面的機能支払の活動や営農活動に関係なく、怪我した場合の対象となるケースが多い。

(友貞主事)

- ・営農保険に入っている方が多い。イベント共済保険については、4月1日から3月31日の期間で掛けている。

(永山課長補佐)

- ・イベント共済保険を年間では掛けていない活動組織がある。怪我が考えられない時期は外していたりする。
- ・また、イベント共済保険については、「1日何名以上」という人数制限があり、小さい組織では、入れないケースがある。

(干場代表)

- ・農作業中の除雪については、保険の種類によって、農業労災の対象とならないケースがある。

(3) 令和6年度に向けた多面的機能支払制度の情報提供【資料3】

(北海道農政部農村振興局農村設計課 小笠原係長)

- ・資料3の24ページから28ページについて説明。
- ・令和6年度の多面的機能支払交付金の要求額は、令和5年度当初予算と同額の470億5,000万円である。
- ・多面的機能支払推進交付金の要求額は、15億3,500万円であり、令和5年度当初予算から6,700万円の減額である。
- ・令和6年度から「多面的機能支払伴走支援事業」というメニューが新設され、要求額は1億6,800万円である。内容は、活動組織の体制強化や多様な人材の参画促進に向けて、都道府県、市町村等(「等」には推進協議会も含まれる)が行う活動組織への専門家への派遣、外部団体とのマッチング等に対して支援する。

4. 閉会挨拶

(北海道農政部農村振興局農村設計課 勝海課長)

北海道の協議会として多面的機能支払交付金制度の効果的な活用には、事例研究会の情報発信が重要であると認識しているので、今後とも一層のご協力をお願いしたい。

皆様には引き続き多面的機能支払交付金の実施を通じて、本道農業のご健康・ご発展を祈念し、閉会のご挨拶とさせていただきます。

以上